

基地の機能強化に関する公開質問状’（再質問）・質疑応答

日時 2017年7月6日10:00～

場所 岩国市役所6階、議長室前応接

対応者 岩国市 基地政策部長 高田

基地政策課長 山中

草の根 井原、南部、津田、小中、重岡、広中

南部

サクラ質問問題がほんとにあったとしたら大変失礼のことで、再度住民説明会を開催してもらいたい。私の質問をぜひ受けてもらいたい。

市議会での重岡さんの質問に対する副市長の答弁を聞いていて、事実誤認がある。

だから、そういう点について、副市長と直接会って質したい。

次回は、ぜひ副市長もでてきて回答していただきたい。

井原

いつも「口頭扱い」で回答もらっていますが、その回答を受ける場を設けて、副市長や加納部長の出席をお願いしておきます。

小中

住民説明会のような際に、行政が特定の控え室まで誘導して話をするというのは、公平な運営という観点から問題がある。

井原

高田さんや山中さんも、その場にいたのでしょうか。

高田

常に私たちは控室にいたわけではなく、基本はステージの方において、行ったり来たりしていた。その中で、あたしたちは6時前には行きましたので、始まるかなり前に、ある団体の人が何人か連れて、「質問を考えてきたよ」というような感じのことを言われました。加納部長も、控え室に座って待っていたわけではなく、行ったり来たりするなかで、来られたので、控室に行って、何でしょうかと対応した。

（先に全部、あったことを説明して下さい）

ある団体の方が、質問予定者を連れてきて、「質問を考えてきたよ」という趣旨だったので、それだったら、部屋に入って、やりとりはよく聞いていないのですが、そうですかという、1分程度の顔合わせをしたという感じだった。

私も出たり入ったりしていましたが、その場面を見ましたが、座って打ち合わせをしたという感じではなかった。ただ、連れてきて、挨拶をしたという感じだった。

それと、「当てて欲しい」という、ある団体の方が連れてきて、「質問があるよ」という感じだった。

始まる前だったので、ここに書いてあるように質問内容を調整して、打ち合わせをしたという事はなかった。

加納部長にも、いろいろ話は聞きましたけど、「特に自分としては、会場は大きいので、できるだけ前後左右に振り分けて当てている。質問者の服の色についてはよく見えてない。手をあげている人を見ながら前後左右固まらないように指名した。」とのこと。

南部

私も前に座っていたが、なかなか当ててくれないので、少し苛立って、最後のほうでは、かなり大きな声をあげたが、あたらなかった。今後、住民説明会の時にだれか紹介してもらって司会者に挨拶にいけばあててもらえるのか。

高田

紹介されたから、当てたという感覚は持っていないということです。

南部

でも、事実、そうになっていたのではないか。

高田

このブログが質問の前に書いてあるのなら、そうかもしれませんが、説明会のあとですから当然、かけますよね。

井原

何を言っているの・・・（笑い）。

南部

そういう議論を始めると、大変なことになりますよ。インターネットは非常に厳格なので、いつ、誰が、何時に書いたのかきちんと出ていますからね。

高田

新聞にも、本人のコメントが出ていましたが、本人としては頼まれたかもしれないが、岩国市としては、それだから当てたという感覚は持っていない。

重岡

しかし、実際に指名し直したとか、部屋に入れたというのは、コンプライアンスという点で、守っていない。普通はありえないこと。説明会の前に、ある強い人が5～6人連れて部屋に入ってきた、普通だったら断らなければいけない。疑惑を招かないようにコンプライアンスだから。それから、現場で指名し直したというのはアウトだ。

高田

ただ加納部長は、その時の状況についてあまり記憶がない。テープを聞いてみて、確認したという感覚。実際の色とかは見えてないと言っていました。

「そのあたりをうろうろしていたので、違う人が来たなという感覚はありました。ただそこで、打ち合わせをしたとかいうことはまったくない。それくらいの時間で、顔を全部覚えられるわけでもないし、実際には、自分としては事前に来られたから当てたのではなくて・・・」

南部

きちんと当事者が、今度説明してください。あなたが代弁していても仕方がない。

高田

それが、実際に聞いた話ですから。

南部

伝聞では仕方がない。加納部長に来てもらって、ここで話したほうがいいですよ。

副市長もね。

高田

たまたま加納部長が司会をしたが、艦載機の移駐問題については、基地政策部が責任を持っているので、私が対応している。

南部

だったら、何回も挙手してるのにあてずに、おしまいにするのですか。30分でも延長すれば良かったのに。

全員にあてて満足いくまでやれば、説明会をちゃんとやったということになる。私の知っているだけでも3～4人いたが、まだ質問したい人は沢山残っていたでしょう。

高田

時間の制約があるなかで、そうした対応した。

南部

だから、住民説明会をもう一回やってくださいと提案している。そうしないと、市長の容認表明もおかしいということになる。住民説明会をやったからと市長が言ってるが、満足のいく説明会では無いではないか。あれを撤回して、もう一回やってくださいよ。

高田

それは、ムズカシイ。

重岡

市民の意見を葬り去ったのだから、少なくともお詫びをするのは、市長としてのせきにんである。

井原

多くの方が意見を言えなかったというのは大きな問題ですが、その前段として、住民説明会の不公平な運営によって意見が言えなかったということであれば、もっと問題が大き

い。

今の説明について、少し確認する。

高田さんが、実際にその場において見たこと聞いたことを説明された。それから、加納部長から聞いたことを言われた。

そこを区別して聞きます。17:25

高田さんの説明の中に、ある団体の人が連れてきたとあったが、ある団体が紹介して一緒に来たということですね。

高田

そういうことです。

井原

ある団体とは、商工会議所ですか

高田

(含み笑い) (小声で) そんな感じですよ

井原

そんな感じ、なのですね。(笑い)

はっきり言えないのですか。

高田

(含み笑い) そんな感じということですよ。

ある団体ということで、推測してもらったらいいと思います。

井原

まあ、(商工会議所)と認めたということですね。

重岡

それだったら、便宜を図ったということになるよ

高田

わざわざ私たちが案内したわけではなく、勝手に来たのだから。

いきなり控室に来たわけではなく、出たり入ったりしていたときに、何人か連れてきたので、何かといたら、「質問したい」とか、「考えて来た」と言うから、それではと控室で挨拶をしたということですよ。

井原

要するに、控え室に入ったわけですよ。

津田

わざわざ控え室に、入れてから話をしたというのは、そこで何を話したか、誰もわからないが、一般的にはいろいろな推測ができる。

井原

要するに、いきなり控え室に来たのではなくて、ばたばたしてるときにその辺にこられたので、一緒に控室に案内して、その時に、高田さんも一緒に立ち会ったのか。

高田

私も、当然、団体の方を知っていますから、入りました。

井原

そして、みなさんの言うところの挨拶を受けたということですか

高田

はい、そうです。

重岡

その時に、岩国市側は何人だったのですか

高田

私と、他に何人かいた。市長や副市長はいなかった。

井原

高田さんと加納部長がいたということ。

あらかじめ、行くよという連絡なり、アポイントがあったのか。

高田

それはない。

井原

当日は、商工会議所の人が5～6人連れてきた・・・

高田

商工会議所とは言っていない、ある団体が・・・（笑い）

井原

その5～6人の中には、高田さんや加納部長の知っている人もいたかもしれないが・・・

高田

知っている人はいません。

井原

その人達がいきなり行っても会えるわけないので、ある団体の人が間をとって連れてきたということなのですね。

ある団体の人が来て、「質問を考えて来た」といったのか。

高田

「質問をしたいので」といった。

井原

村田審議官は、賛成、反対はわからないと言っていたが、ある団体の人が連れてきたのだから、どちらかというのはわかるよね。

高田

そこは、聞いていません。

井原

「質問したいと言ってきた」と。

高田

「質問を考えて来た」と言ってきた。

井原

どちらですか。先程は、「考えて来た」といったら、そちらが、「質問したい」と言ってきたと・・・

高田

「質問を考えて来たよ」というような言い方だったと思う。

（笑いながら）鮮明に覚えていない。

井原

どちらでも、同じようなもの。

ある団体が、単に挨拶だけで連れてくるわけない。向こうの意図は、挨拶する人を覚えてもらって、

高田

そんな意図があったのかもしれないが、そこまでではなく、あ、そうですかという感じだった。

井原

相手には、意図があったと思う。そうだとすれば、当然、質問予定者の名前や質問内容を数分間に説明するのではないか。

高田

一般質問でも答えました、そういうことは、他の会場でもあったわけだから、

井原

ごまかさないで。それはあると思うよ。すべて他の会場でもサクラが用意されていたと、私たちは思う。

でも、他の会場のことを聞いているわけではない。

高田

そのときに、そんな重いような、打合せみたいなことをしたわけではない。

井原

ごまかさないで。実際の話を知っている。事前の打ち合わせをしたどうかで、やりとりをしてもしょうがない。そんなことをきいているのではなく、その短い間に、挨拶をしたというのだから、普通に考えれば、挨拶に行く人は、質問者を覚えてほしいし、質問内容も司会者に覚えてほしいからね。当然、連れて行ったわけよ。5～6人連れて行って、質問考えて来ましたと言うだけで、すぐ帰るわけない。

高田

でも、実際には、そうです。

井原

だから、それを聞いている。実際に、名前と質問内容を言ったのではないかと聞いている。当然それは、高田さんがそこにいたわけでしょ、

高田

近くにいた。

井原

一緒に並んで挨拶を受けたのではないの。

高田

近くといっても、同じ部屋ですから。

井原

加納部長と高田さんが主体になって挨拶を受けたのか。それとも、高田さんはバタバタしていたので、近くで見ただけなのか

高田

すぐへりにいましたよ。

井原

へりというのは、（笑い）、事実上へりにいたのか、それとも、空間を言っているのではなくて、あいさつの主体として、並んで受けたのか。それを聞いている。

重岡

部屋の中に、椅子とテーブルがあって、座ってハナシタのか。立ったままで話したのか。

高田

立ったまま、さらっと囲んで、

井原

立ったままというのはさっきも言った。確認したいのだが、座って話をしていないと。

高田

はい、そうです。立って、ぱっと囲んで・・・

井原

もう一度聞くが、高田さんも、その挨拶を受けた主体だったの。相手方だったの。

高田

私もいましたから、主体と言えば主体。

井原

何で、はっきりしないの

高田

言われるように、名刺交換して、そんな挨拶ではない。どう言えばいいのか。

具体的に言えば、なんか来られたので、部屋に入り、「質問を考えてきたよ」と並ぶではないですか。「それでは、またよろしくおねがいます」というような感じの挨拶だった。

井原

だから、その挨拶を受けたのでしょうか、その主体だったのでしょうか

高田

それが、挨拶の主体なのかどうか・・・

山中

警察の現場検証のよう・・・（笑い）

真実に迫ろうとする姿勢はよくわかりますが

井原 30:30

事実は、一つしかないから、その事実をきちんと詰めていけば、どこかにごまかしがあると答弁できなくなる。だから、少し詰めているの。ごまかしがあると思うから。でも、だんだんあきらかになってきた。

質問したいのですと言って5～6人入ってきて、お互いに並んで、

「質問したいのです」、「わかりました」と言って、挨拶したということですね。

高田

まあ、そんな感じです。

井原

普通に考えたら、名前も何も言わないで、何のために団体、商工会議所の人がつれてきたのかということになる。何のためにわざわざ、控え室まで挨拶に行ったのか。それは、自分たちに当ててほしいという意図があったからですよ。事前に、市役所が用意したのかどうかまでは言わないが、仮にそうでなくても、団体、商工会議所はサクラ質問を用意したというのは事実だと思うし、そして、それが少しでも効果があるように、あててほしいと思うから、挨拶に出かけていったわけですよ。

挨拶しただけでも、顔などを実際に見るわけだから、それだけでも、司会者が指名する契機になるから、公平性を疑われることは明白。もっと言えばそれだけで終わってない可能性が高い。団体の人が、少なくとも名前、内容も紹介しているという疑惑があると思わざるを得ない。

南部

あなたが、どういうあいさつをしたのか、記憶をたどって、具体的に説明してください。

高田

「質問したい」と言って、「ああそうですか」とそんな感じです。それだけです。

ぱっと、顔を見て、「来ていただいてありがとうございます」という感じ。

井原

ごまかしているのでしょうか、そのときに、加納部長は顔を覚えたのかな。

何も言わないで帰るわけないと思います。

例えば、南部さんが部屋に行けば、「南部です、こういう質問をしますから、当ててください」といいますよね、当然。

南部

それをやった方がいいのだったら、私もやりますよ。

(笑い)

そんな不公平なことをやったらイカンですよ。

重岡

廊下で会って、頼まれて、部屋に案内した、そこで、アウトですよ。コンプライアンスという点で。

井原

それは、その通り。

高田さんが、その場において、見聞きしたことはそれくらいですかね。

ある団体の方が連れてきたということと、

5~6人入ってきて、挨拶を短時間受けた、

立ち話であった、

名前や質問内容は、特になく、挨拶程度であった、

重岡

商工会議所の方が連れて行った5~6人は部屋に入れたということですが、それでは、反対の人が同じようにいったら、部屋に入れましたか。

高田

柵も何もないので、来られれば話は聞くとおもいますよ。用事によれば、部屋に連れて行くこともありますよ。

南部

そういうことをしないと当ててくれないのなら、みんなそうしますよ。

高田

来たから当てたという感覚はないということ。

井原

高田さんの見聞きしたことを聞かせてもらったが、これは、意味があった。

広中 1:02:35

岩国市は、このブログが本物かどうか、どう思っているのか。

高田

実際にブログを見ていないので、本物かどうかわからない。

広中

住民説明会で質問した人がこうしたブログを書いているわけだが、市としては、団体や本人に注意などしたのか。

高田

ブログ自体は、私たちは入手していないので、これが本物かどうかわからない。

確認のしようもないので、そういうことはしていない。

私たちとしては、そういう事実はないと。

広中

では、そういうでたらめなブログを載せられたことに対して、どう思うか。面白おかしく

書いたことに抗議すべきではないか。

高田

その本人に対して、抗議することは考えていない。

広中

大事な住民説明会に関してこういうブログを書き、問題になり、もう一度住民説明会をということにもつながっていく。それに対して、市としても何らかのコメントを出すべきではないか。

高田

ブログ自体を市として把握していないので。

広中

それをきちんと調べるべきではないか。

記者は、調べて、本人と接触してコメントをとっている。市としても、それをやるべきでは。

高田

法律に触れたり、悪意があるわけでもないので、対応は考えていない。

広中

これが事実でないなら、そういうコメントをきちんと出すべき。

高田

・・・(声が小さく、聞き取れず)

広中

こういうことがないよう、関係者に強くいうべき。そうでなければ、反対側からも、事前に行くから当ててほしいという声が出てくる。

高田

ブログなどで、市のことをいろいろ書いている方はいるので、それに対していちいち対応はしない。

井原

それは、私のことか。私は、真実をかいている。

(笑い)

小中

説明会の前に、団体が紹介して、話したいことがあると言ってくる人たちを控室に入れるということ自体が、市の怠慢ですよ。

私は、自治会長をやっているが、ごみ焼却場の問題でも、すべて計画が出来上がってがんじがらめになってから住民説明会をやる。平成23年のときも、こう決まりましたという文書がいきなり来た。その際、住民説明会はいつやるのかと聞いたら、すぐやると言いながら、実際には2年後になった。しっかり検討してやらないと、市民から不信の目をもって見られる。行政は、市民の模範でなければならない。

南部

今日の資料のブログのデータを見てください。この一番上に、これがいつ取得されたものか明確に書いてある。一つは、5月20日の朝の3時47分37秒に取得されたもの、その時に書いたものです。それから、問題になっているブログは、5月24日の朝5時47分27秒に書かれたものです。23日に住民説明会があり、その翌朝の5時にブログを書いてあげている。これを見ると、この方は正直に書いている。他の人から、このブログを削除してくれということも翌朝には多分あったでしょう。しかし、実際に書いた5時にはそういう話は当然ないわけで、その時は、素直に書いているわけです。その後、撤去はしたが。となると、普通、こういうデータから見ると、素直に書いているなど理解するのが当たり前。そういうデータをあなたは読んでいない、調べてもないというから、それは

おかしいでしょう。こんなものが出てきたら、それを確認するのが当然でしょう。我々が出さないと、調べないのですか。これが嘘だというなら、それを立証する必要があります。

高田

市として、こういうことを頼んだりしたことはないし、こういうデータはよくわからないので・・・

南部

よくわからないのなら、読んでくださいよ、きちんと。

高田

こういう話があって、探してみたら、もうなかったということです。

井原

これは、インターネットから、だれでも出すことができる資料ですよ。

インターネットでは、いったん削除しても、グーグルなどの検索サイトに残っている。それを探したもの。上に書いてあるのが、作成の日時やブログのアドレスなど。

それが証明している。

記者も本人に確認しているように、こういうブログを書いたということは事実。

副市長の答弁の中でも、ブログを取り上げ、記事も引用して、「事前打ち合わせをしていない」と言っているので、いい加減なブログだと重岡さんに反撃しているが、ブログがあるということは、副市長の答弁でも認めていることになる。

記事によると、「面白おかしく書いた」、「事前打ち合わせはしていない」とあるが、議会でのやり取りや今まで確認したところによると、書いてあることはほとんど事実である。

あること、ないことというけれど、ないことはどこにも書いてない。

ただ、唯一、「事前打ち合わせをしていない」というところを、本人も、市役所も否定しているようだが、「事前打ち合わせをしている」とか「していない」とかいう言葉の問題ではなく、実際に会って、そこで何が行われたかが問題である。書いてあることは、嘘はどこにもない。だから、あること、ないこと書いたブログだとはとても思えない、まじめな、悩みぬいたブログであって、中身はほとんど真実である。

だから、私たちとしては、疑惑はますます深まっている、いや確信に近いものになっている。

津田

国の住民説明会でやらせがあり、大変問題になったことがあったが、知っているか。

確か、九州電力の原発問題だったが、そうした事実も把握していないのか。

こうしたものは、公正にやるという前提があるではないか。

事前に、特定の団体や個人と接触して、しかも、控室にまで入れるということでは、高田さんがいうことが事実かどうかかわからないが、第三者から見ると、そうは受け取れない。まず、接触を避けるということが前提ではないか。これまでの住民説明会も、事前に当たり前のように会っている。市の幹部として、そういうことをやったらいけないということは、たぶん認識しているはず。

高田

ただ、何で来たかは、その時点ではわからないわけですから。

重岡

廊下で、お願いがあったと言ったのではないか。

(ミサイル問題) 1:19:47～

井原

ミサイル問題については、もう、何も対策はしないのですか。

高田

先日、J-アラートの情報伝達訓練をしましたが、その中で、よく聞こえないなどの声があったことは聞いている。今後、どうするか、詳細は聞いていない。

ただ、基本は、政府として、国際社会と連携してそうした行動を起こさせないための努力をする、そして、ミサイル防衛システムで防御する、それが第一だと思っているので、現時点で、シェルターなどは考えていない。

井原

シェルターは、単なる一例に過ぎない。国が、紛争が起こらないように努力する、何か起こったときは防衛システムで守る、それは当たり前のこと。そんなことを言っているのではない。それがあつたとしても、万全ではない。そのために、J-アラートをやっているのでしょうか。何か起こる可能性を考えて、情報伝達訓練だけでいいのか。

例えば、今日、朝鮮半島で紛争が起こったら、市役所はどうするの。J-アラートは、まだ使えないし、ただ見ているだけですか。

例えば、大雨に備えて、先日学校を休校にしたのではないか。朝鮮半島で紛争が起こりミサイルが飛んでくるかもしれないという場合に、学校を休校にするとか、避難させることなども考える必要があるかもしれないではないか。有事に備えて、あらゆる事態を想定して対応することは、市民の命に関わることだから、それを考えないということが、私には信じられない。いざというときに、何もできずに、右往左往するよ。

そうならないように国が努力するのを待っているというのは、当たり前のこと。それでは、市長や知事の責任は果たせない。万が一の事態を考えておく必要がある。J-アラートは、ミサイルが飛んでくるかもしれないからやっているのでしょうか。その時に、情報伝達訓練だけして終わりでは役に立たない。例えば、ミサイルが実際に着弾して大きな被害を受けたらどうするの。

高田

そうならない努力の方が大切であると思う。

井原

それは、わかっている・・・

重岡

岩国市の地域防災計画には、ミサイルの対応は入っていない。地域防災計画に組み込んでいかないと、ミサイル攻撃の場合の対応がとれない。組織的に動かないことになる。そういう協議は始めているのか。

高田

基本的には、私は、そこの担当ではないので・・・

井原

そういうことも含めて、担当の方にきちんと考えてもらってください。

例えば、有事が起こったときに、対策本部ができて、まず、情報収集して、何をすべきか検討する必要があるのではないか。実際にミサイルが飛んでくる前に、自主避難所を準備するとか、そういう対策を考える体制を作らなければならないし、マニュアルも必要ではないか。災害では、警報が出れば避難勧告するなどの基準ができていますからすぐ実施することができるが、ミサイル攻撃については、防災計画にも入っていないければ、何もできないではないか。

重岡

そういう話が進んでいるのかと思った。国民保護法とか・・・

高田

詳細は、承知していない。

重岡

危機管理官も同席しなければならない。

井原

やっていないかもしれないが、やる必要があると思う。だから、ぜひ、早急に検討してほしい。今回の緊張状態は長引くかもしれない。すぐ起こるかもしれないし、1～2年緊張が続いて、最終的に戦争になるかもしれない。これまでにないことだから、難しいかもしれないが、そういう事態に備えて対応すべき。岩国市が何もやらないのなら、私たちが自主的にやるしかない。

南部

艦載機の移駐を容認したので、以前と比べれば、当然、危険性は増大したと考えられるが、そういう認識は、岩国市にもあるのでしょうか。容認するという事は、そういう危険を冒すのだから、それに対する対策を住民にきちんと説明すべき。それがなければ、市民の安全を守るという第一義的な市長の役目を果たしていない。それを聞いているのに、いやそれは国がやることだというのは、違うでしょう。

高田

危険性については、一概には言えない。

南部

60機が130機になる。北朝鮮は、・・・
危険性が増大したとは、あなた、思わないのか。

高田

私は、北朝鮮ではないので・・・、危険性の話まで私にはできない。

南部

普通の一般的常識として・・・

高田

一概には言えない。

南部

どうして言えないの、理由は。

高田

基地があるから狙われる、基地が増強するから狙われる。では、基地がないから狙われない。北朝鮮の目的がどこにあるか一概に言えないので、危険性が高まるかどうかは言えない。

南部

それは、詭弁もいいところだ。

井原

だって、北朝鮮は、在日米軍基地を狙うと言っているのではないか。岩国もその一つの標的ではないか。

高田

標的といっても、どこが狙われるか、一概に言えない。艦載機が移駐するから狙われると、一概に言えない。

津田、南部

まあ、そういう考えだということだね。

重岡

それにしても、これに対する回答は、口頭ではなく、もう一度こうした場を設けて、副市長や危機管理官なども出てきて、答弁を求めたい。

井原

口頭でもいい、「口頭扱い」でもいいが、副市長と加納部長、危機管理官の回答を直接聞きたいと思うので、要望しておく。

重岡

防災計画については、新たな課題なので、早急に対応を検討してほしい。

井原

どこが攻撃されるか、それはわからないが、基地がある町として、他人事のようなことを言っているはいけない、万が一、自分の町が攻撃されたらどうするかということを、全国横並びではなく、岩国市としてきちんと考えなければいけないし、考えておく方がいいと思う、老婆心ながら。米軍基地を狙うと言っているのだから、沖縄か、岩国か、それとも横田か三沢か、限られたところしかないわけだから、きちんと対策を講ずべき。

小中

やはり、担当部局の長が出てきて説明するのが本来の姿だと思う。

容認したのであれば、米兵や家族の受け入れ態勢、ケアを事前にしっかり考えてほしい。交付金で箱モノを作るだけではなく、市民が安心して暮らせるよう、こうしたソフト面の対策もしっかりやるべき。

井原、重岡

できるだけ早く回答してほしい。10日くらいで大丈夫か。

高田

他部局との調整もあるので、もう少しかかるかもしれない。

重岡

それでは、20日くらいまでをお願いします。